

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。梅雨の真ただ中、じめじめと蒸し暑い日が続いておりますが皆様はお変わりございませんでしょうか。

今回は、昨年ワールドカップの熱が冷め止まぬサッカー日本代表の国際親善試合、日本対ペルー戦に注目をして行きたいと思っております。6月20日キリンチャレンジカップとして、大阪・パナソニックスタジアム吹田で行われたペルー戦、前半に伊藤洋輝選手・三苫薫選手の得点で2-0で折り返し、後半も伊藤純也選手と前田大然選手

のゴールで突き放し、1失点でしのぎ、15日のエルサルバドル戦に続き2連勝を上げました。1993年10月28日のドーハの悲劇から昨年のドーハの歓喜、そして今回の親善試合2連勝、日本サッカーのレベルが上がって来ているのが感じられます。得点力不足と言われ続けて来た先人たちの思い、数々の歴史を経て今の日本サッカーがあるのだと思います。いつかワールドカップで日本が優勝する日が来ると信じています。

私も先人たちから受け継いだものを大切にし、利用者様お一人お一人に寄り添い極め細やかなサービスを提供していく事を心に誓い、日々精進して参ります。

七夕の頃、まだまだ足元が悪い日が続きますが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

家族に大切にされ続けた最期——
年を取ることにについて考える物語

その方は弊社立ち上げたばかりの頃、娘宅へ同居したことがきっかけで関わらせて頂きました。

とってもハイカラさんで署名欄に「変形かな文字」を書いたり「英語でサイン」したりとチャーミングな方でした。

100歳を超えてから毎年利用している施設での誕生日会にも同席させて頂いた時もケーキをパクリパクリと食べてしまい、娘さんのケーキも食べていた程の元気な方でした。自宅では同居の娘さんのご主人が素敵な方で、いつもトイレまで抱えたり、散歩に連れ出すのが日課でした。ご主人の口癖は「家のおばあちゃんは大した人ですよ」とビデオや写真を撮っては見せてくれていたのです。ご家族との合言葉は「目指せ足立区長寿1位」毎回訪問する度に「まだ1位にならないのよ。同一2位（107歳）」と言われ皆で1位になるのを首を長く待っていたのでした。ベット上でオムツ交換は可哀そうだと最後までトイレへ誘導し娘さんとご主人で大事に介護されていたのですが、先月下旬肺に水が溜まり入院後静かに息を引き取ったのでした。

年を取ることは残酷です。人は誰もが年を重ねてできない事が増えてきます。できなくなった時こそ家族の力が必要とされるのです。家族に大切にされ続けた幸せな最後だったと思います。

そんな方々に関われた事に感謝の気持ちで一杯になりました。

サンライズのデイサービス陽光だより



誕生日

誕生日カードを差し上げ、おやつでケーキを出しました。皆さん「ありがとう」「ケーキ美味しい」と言って喜んで召し上がられました。



7月カレンダー制作

折り紙でアサガオの花や葉っぱ等を作りカレンダーを作りました。



NEWS 今月のニュース

患者や家族が語り合う「認知症カフェ」誕生

姫路中央病院では4月から、毎月第4金曜に院内の一室で「よつばカフェ」を開いている。手軽に専門職に相談できるため、県の「認知症疾患医療センター」に指定されている同病院に姫路市が委託し、患者と家族、専門家に限定したカフェを設置した。

5月下旬、2回目のカフェには認知症患者の家族を中心に男女約15人が集まり、互いの経験を話し合った。

テレビの消し方が分からない、財布を冷蔵庫に片付ける。認知症患者と暮らす家族は具体的な悩みとともに、不安な気持ちを打ち明ける。認知症になった夫や妻、親の変化に戸惑う家族のイライラ、悲しさ、やるせなさ…。多くの参加者が「家族の変化を認められない」といい、ほかの参加者の言葉に問題解決のヒントを探していた。

「外来の患者さんの家族も、他の

人がどう対応しているか気になっている。当事者同士だからこそ共感できる部分も多いはず」。カフェの役割をそう分析するのは担当の女性看護師だ。

姫路市内の認知症患者は、2020年時点で2万人以上と推定されている。国の試算では25年には全国の患者数は700万人を超え、高齢者の約5人に1人が認知症患者になるという。

市内では、認知症予防を目的に、地域住民が主体になって開催されるサロンの需要も高まっている。高齢者の交流が活動の中心で、市内100カ所近くで開かれている。

姫路市青山の集会所では月1回、認知症サロン「オレンジカフェあおやま1号」を開催。民生委員・児童委員らでつくる「青山1000人会」などが主催し、09年からこれまで200回以上実施している。

看護師など専門職が常駐し、体操や音楽を楽しむほか、地域の子もたちが訪れることもある。毎回参加

するという近くの女性（88）は「外出するきっかけの一つで、ここで友人に会えるとほっとする」と笑う。

同会代表の岸岡孝昭さん（77）は「認知症の人も地域の高齢者も気軽に触れ合える内容。家にもって孤独感を感じる人も減るはず」と期待している。



地域住民の触れ合いの場となっている「オレンジカフェあおやま1号」=姫路市青山2

<神戸新聞NEXT 23/6/13(火)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>